

今年は 春の穏やかな季節感を楽しむ期間が少ないまま、一気に夏の到来？と間違ふような暑い日が続いたり 台風みたいな豪雨や強風などに脅かされたりと なんとなく落ち着かない天候の中で スタートした2024年度となりましたが 気が付けば6月です。関東地方も もうまもなく梅雨入り宣言がなされるようです。四季の移り変わりが早まっているのかもしれませんが、すべては 神様の御心であり 恵みであり、必然であると信じ、子ども達と共に 天を仰ぎ、心明るく笑顔の毎日を元気に過ごしていきたいと願っております。今月も どうぞよろしくお願い致します。

さて 毎月最終土曜日は、皆さまのご協力とご理解を頂き、全職員による職員会と研修会の 有意義な機会を与えられておりますこと、改めまして 感謝申し上げます。普段の保育の中で ゆっくり時間を取って、子ども達ひとりひとりの姿を見つめ直し、それぞれが言葉に出して 具体的に話し合ったり じっくり考え合ったりすることはなかなか難しいのが現状です。そのため、月に1度のこの時間は とても貴重です。

以前の巻頭言でも 記しましたが、“歩く”という字は“少し止まる”と書きます。つのぶえ保育園が歩み続けるため、私共が保育者として在り続けるため、研修会はまさに“少し止まる”ことであると その大切さを感じています。コロナ以前の様に今年度からはまた 外へも出て行き、同じ保育の現場で日々頑張っている仲間達との様々な出会いや交流を通して分かち合い、慌ただしく走り続けている 日常の自身を振り返り、子ども達への新たなまなざしや意識に変えて しっかりと向き合えるよう、園内での研修と併せて、実りある心豊かな学びの時にしていきたいと願っています。

そんな中で 今 最も熱心に考え合い、話し合いつつ、毎日 試行錯誤しているのは、“子ども達の食” “食べることについて” “給食・おやつを楽しく！”です。日々の保育の上で 参考図書としている「キリスト教保育 6月号」に掲載されている「論説」の中で 管理栄養士・医学博士である本多京子氏は 次のように述べています。

「食」は「人」と「良」という字から成り立っていますが、  
何をどう食べるかは その人の生き方にも影響を与えます。

「食」は ただ空腹を満たすためのものだけではありません。

「食べること」は 人に代わってもらうことができません。

誰か代わりに食べてあげても、その人の栄養にはならないからです。

誰の手も借りられないし、まして代わってもらうことができないからこそ

「自分の力」をしっかり身につけておくことが大切なのです。

さらに、以下のように 明言されています。

「食」は 人としての心の在り方や運命にも影響を与えます。

「食べる力」を育てれば「生きる力」が強くなります。

つのぶえの献立は、給食室の先生達が、子ども達一人ひとりの顔を想い浮かべながら現場の保育者達と相談し合って、毎月、旬の色々な食材を取り入れることに努めつつ レシピや切り方、器や盛り付けにも工夫を凝らして、ある時には絵コンテまで作成し 細やかに考えています。その愛情と熱意を 子ども達に丁寧に 心温まる言葉で伝えるということに意味があると考えています。作る側と食べる側との“心”が繋がることそして、食材の一つ一つに命があったこと、それを食べることで命の力をもらうこと、子どもがそれぞれにイメージできるような働きかけを大切にしたいと思っています。作ってくれた人を想い 食材を大切に想い、命を支えてくださる神様に感謝しながら 楽しい食事の時を分かち合うことが 心と身体の何よりの栄養になるのだと思います。

「すべてのことについて 感謝しなさい。(Iテサロニケ 5:18)」 (石田 記)